校長室だより

共学共高

第109号

令和８年 11 月 14 日発行

発行責任者
白梅学園高等学校長
武　内　　彰

USJを楽しんだ！～関西修学旅行編4

修学旅行４日目は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）での班別行動である。ビュッフェ形式の朝食をいただき、ホテル内のツアーデスク前にそろった班から出発である。この日も私服での行動となる。事前指導の時に１組の生徒が予め教えてくれたのだが、ハリー・ポッターのマントを身に付けて行動する班があった。しかも、マントの胸のところには個人名まで入っているではないか。なかなかの気合の入れようである。

すべての班が出発した後、私たち教員チームもユニバの入口へと向かう。ホテルからは徒歩 2 分といったところである。写真で目にしたことのある地球型のモニュメントが目に入ってくる。入り口では人々が列をなしていたが、比較的スムーズに入場することができた。敷地内は日常生活とは離れた夢のある場所である、と感じる。





敷地内には、「ハリウッド・エリア」「ニューヨーク・エリア」「ミニオン・パーク」「ユニバーサル・ワンダーランド」「スーパー・ニンテンドー・ワールド」「ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリー・ポッター」といったエリアに分かれていて、子供のいる家族連れも若者もお年寄りも楽しめるようになっている。私には密かにトライしてみたいアトラクションがあった。かつての教え子から勧められた絶叫マシンである。しかし、早くも挫折する。待ち時間が 90 分もあるのだ。彼女と二人で楽しくお話ししながらならば待てるが、一人で 90 分間もボーっと待ってはいられない。もう一つ、考えていたアトラクションは 270 分待ちである。大変な人気ではないか。結局、待ち時間が 15 分のアトラクションとなると、小さな子供が楽しむものばかりである。さすがに一人で乗るのはためらわれる。結局、誰でもすぐに楽しめるライブショーで足を止めて、楽しむことにした。絶叫マシンからは、若い女

性の「キャー」という声が聞こえてくる。生徒たちも並んで待って挑戦しているだろうな、と思いながら見つめる。事前にアプリでチェックしていた昼食場所も行列である。あきらめて、テイクアウト形式の小さなお店に並ぶ。ショップも楽しいグッズが多々あるので、いろいろとチェックしながら頼まれていたものを購入する。途中で生徒たちにも会う。一緒に写真を撮った班が一つ、絶叫マシンが苦手で友達が終わるのを待っている班にも出会った。広大な敷地内を 3 周はしたであろうか。どこに何があるかは、すっかり把握することができた。生徒たちがホテルに帰ってくる前に、一足先にホテルへ戻り、生徒たちを待つ。どの顔も疲れたようではあるが、楽しんだようだ。







夕食は、宿泊したホテルに隣接するホテルのビュッフェを楽しむ。種類が多くて、生徒たちはデザートを含めてたくさん食べている。修学旅行最後の夜である。（つづく）






（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）